

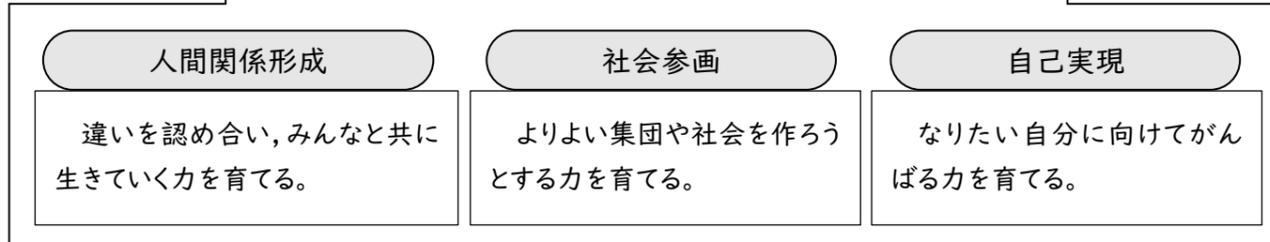
研究主題 安心できる学級・学校づくり ～生徒指導の三機能を生かし、子どもの主体性を育てる～

議題 「2-1のスペシャルべん強タイムを作ろう」 (1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

1. 学級活動(1)で育成を目指す資質・能力

- 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。
- 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。
- 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

育成すべき資質・能力の重要な視点



2. 第1学年及び第2学年における評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
みんなで学級生活を楽しくするために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 話し合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	学級生活を楽しくするために、問題を発見し、解決方法について話し合いの進め方に沿って合意形成を図り、仲良く助け合って実践している。	学級生活を楽しくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団活動に取り組もうとしている。

3. 議題について

(1) 児童の実態

進級してから8か月が過ぎ、友だちの輪も広がり大人数で休み時間におにごっこやボール遊びをする姿が見られる。また、授業では、進んで発表したり話し合い活動に積極的に取り組んだりすることができるようになってきた。しかし、まだ自己中心的な考えをする児童や、反対に自分の意見に自信が持てず友達に伝えたり発表したりすることが苦手な児童もいる。

学級目標は、2-1をどんなクラスにしたいかについて話し合い、「だれにでもやさしく きまりをまもれる たのしくあかい 2年1組」になった。中でも特に「たのしくあかい」を目指している児童が多く、これまでの学級会でもみんなが楽しくなることを大切に話し合ってきた。

本時までの学級会では、「お楽しみ会をひらこう」「みんなでなかよくあそぼう」などの内容で取り組んできた。初めは教師中心で司会者とともに学級会を進めてきたが、少しずつ司会者が進行することができるようになり、学級会の仕方が定着しつつある。話し合いでは、だれでもできることやみんなが楽しく取り組める工夫を出すなど、自分だけでなくみんなが楽しいことを意欲的に発表する姿が見られる。2学期に入ると、「係を決めよう」「2-1の係活動をレベルアップしよう!」の2本立てで、係活動をする人もしてもらう人もみんなが楽しめるものにするために話し合ってきた。また、「6年生に縦割り遊びのお礼をしよう」では初めて異学年との交流をしたことで、みんなで話し合ったことが実践されることにより嬉しさや充実感を感じることができた。

(2) 議題選定の理由

12月に入り、2学期も終わりに近づいてきたことを伝え、学級目標が達成できているかどうか振り返ってみた。すると、児童の中から「遊びはみんなで楽しくできるけど、勉強もみんなが楽しくできたら、もっとクラスが楽しくなる。」という意見が出てきた。そこで、やりたいことリストの中からまだ取り組んでいない「みんなで楽しく勉強する」を取り上げるようになった。しかし、2学期の学習がほとんど終わっているためそのことを児童に伝えると、「今まで勉強してきたことを使ってやったらいい。」という意見が出て、本議題は「2-1のスペシャルべん強タイムを作ろう」になった。

比べあう段階では、今まで学んだことをつかって①力を合わせてできること②みんなで答えられることという視点を持って考えることができるように、必要に応じてめあてに立ち戻るようにする。

まとめる段階では、これまでの話し合い活動で大切にしてきた合意形成を行いながら、司会者だけでなくフロアにも確認を取りながら決めていけるようにしたい。

さらに、1週間以内に話し合っ決めたオリジナル時間割を組むことで、みんなで話し合ったことがすぐに実践できる喜びを味わわせ、ほかの児童と協力して進んで集団活動に取り組もうとする態度を育てたり、その楽しさを感じられるようにしたい。

4. 指導と評価の計画

事前の活動		本時の展開			事後の活動	
日時	計画委員の活動計・学級全員の活動学 指導上の留意点(・)	本時のねらい これまでの学習を生かして、みんなで楽しく取り組める工夫を話し合うことができる。			日時	計画委員の活動計・学級全員の活動学 指導上の留意点(・)
11月29日(月) ①昼休み ②帰りの会	①議題の決定計 ・議題カードをもとに話し合う議題を決める。 ②議題の周知計 ・提案理由を明らかにして、学級全員に伝え、学級会コーナーに掲示する。	話し合いの順序	気をつけること ○留意点	◎目指す児童の姿 (観点)【評価方法】	12月12日(火) ①学級活動	①活動の実施学 ・話し合った内容を確認し、全員が取り組みやすいようにする。
11月30日(火) ③昼休み ④帰りの会	③役割分担計 ・学級会の進行の仕方を確認する。 ④案募集学 ・学級会ノートに自分の考えを記入する。	1 はじめの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の確認	2-1のスペシャルべん強タイムを作ろう	◎目指す児童の姿 (観点)【評価方法】	12月12日(火) ②帰りの会	④振り返り学 ・めあてに基づいた振り返りを行う。 ・自分の役割や友だちの良さについても振り返り、自他の頑張りを認められるよう助言する。
12月2日(金) ⑤帰りの会	⑤学級会のシュミレーション計 ・進行、板書をイメージしながら確認し、話し合いの見通しをもてるようにする。	4 提案理由の確認 ・提案者の思いや願いが伝わるよう、事前に背面黒板に記入して学級全体で周知しておく。 『みんなで楽しく勉強できる工夫を考えよう』 5 めあての確認 6 決まっていることの確認 7 先生の話				
◎目指す児童の姿(観点)【評価方法】 ◎よりよい学級生活づくりのための見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。 (主体的態度) 【学級会ノート・観察】 ◎「今までの学習を生かした、みんなが楽しく勉強できるもの」という目的に合った意見を考え、判断し学級会ノートに書いている。 (知識・理解) 【学級会ノート・観察】		8 話し合い 話し合うこと① 「何をするか。」 話し合うこと② 「チーム決め」 話し合うこと③ 「皆で楽しくできるくふう」 9 決まったことの発表 10 先生の話 11 おわりの言葉	◎勉強が得意な人も苦手な人も取り組みやすい内容を発言したり、友だちの意見を受け止めながら聞いたりしている。 (思考・判断・表現) 【観察・発言】			

5. 板書計画

第 1 回 学級会
議題 「2-1のスペシャルべん強タイムを作ろう」

ていあんりゆう
今までべん強したことをつかってみんな
でできることをやったら、みんなべん強
するのが楽しくなってるかもよくなると思
うから。

きまっていること
・時間は四十五分
・するのは六つ
・三人以上

めあて
みんなで楽しくべん強できるくふうを
考えよう
・力を合わせてできること
・みんなが答えられること

話し合うこと① 何をするか
くらべあう
・わたしはだーれだ？
・九九クイズ
・きせつのクイズ
・リズムうち
・ワーククイズ
・ミッシング
・三十人うまどび

まとめる
話し合うこと② チームぎめ
・わたしはだーれだ？…○○、△△

話し合うこと③ みんなで楽しくできるく
ふう
・わたしはだーれだ？…れつで答える